

## 会 議 録

会 議 名	2024 年度第 2 回東浦町学校給食センター運営委員会	
開 催 日 時	2025 年 3 月 25 日 (火) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 15 分まで	
開 催 場 所	東浦町学校給食センター 2 階会議室	
出 席 者	委 員	山崎千聡氏 (委員長)、浅井真司氏 (副委員長)、大野説夫氏、森雅祥氏、大島泰子氏、山腰寛子氏、日高拓生氏、太田美紀氏、祖母井彩乃氏、長坂浩美氏、青木俊氏、安井光紗乃氏
	事務局	庄子教育長、横井教育部長、長坂学校教育課長兼学校給食センター所長、岩本学校教育課統括課長補佐兼指導主事、大塚学校教育課課長補佐兼学校給食係長、小田栄養教諭、中山栄養教諭
欠 席 者	委 員	日高啓量氏、岡田拓磨氏、工藤潤一氏
議 題 等 (公開又は 非公開の別)	1 令和 7 年度の給食提供について (公開) 2 その他 (公開)	
非公開の理由 (会議を非公開と した理由)		
傍 聴 者 の 数	0 名	
審 議 内 容	<p>◆事務局 傍聴の申し出がないことを報告。 委員長のあいさつ。 教育長のあいさつ。</p> <p>◇委員長 委員の出席及び会議の成立を確認。 次第に従い議事を進める。議題 (1) 「令和 7 年度の給食提供について」を議題とし、事務局から説明を求める。</p> <p>◆事務局 議題 1 について説明。 令和 7 年度の給食開始・終了日については、資料のとおり、全 191 回の給食提供を予定している。 令和 7 年度から、「(新) 給食を提供できる機会を増やします」を新規事業として計画している。</p>	

◆事務局

当日追加資料について説明。

令和7年12月23日(火)の給食提供は、子供たちの心に残る体験(食育)の一つとして実施をしていきたい。「食べて終わり」という事業にはしたくない。教員の働き方改革及び地域の教育力の導入の一例となるよう、当日の給食については教員ノータッチで実施する。「2学期最後の日、全員で給食を食べよう！」をテーマとして、クラス・学年等で12月23日をどう迎えるかを、子どもたち主体で考えさせて取り組んでいく。

※主な質疑、応答は次のとおり

◇委員

教員がノータッチということで、低学年の保護者が心配されると思うが、見守りであれば、学校に配属されているコーディネーター(地域学校協働活動)を活用し、地域の教育力を導入したらよいのではないかと。また、各学校で実施されている試食会の代わりに行ってよいのではないかと思う。

◇委員

新規事業を進めることになった経緯の説明を求める。また、なぜ12月23日に実施することになったのか説明が欲しい。この日に実施することを10小中学校の校長は二の足を踏んでいる。当日配布資料の「テーマ実現への具体的な取り組み」は、学校の負担となることが予想される。

◆事務局

新規事業を進めることになった主な理由としては、現代は共働き世代も多く、保護者からの要望が多いことである。東浦町は新1年生への給食提供が早く、県内でも給食提供の多い町である。食育として、学校現場の要求があれば進めたい。提供体制は5日間整えたが、学校現場の状況・アレルギー対応なども考え、クリスマスも近い12月23日に提供するのがよいのではないかとということになった。

◇委員

学校は要求していないのに、進めるのはどうしてか。12月23日の給食提供について、保護者や児童に話を聞いてみたところ、確かに保護者は賛同しているが、「終業式の日は早く家に帰りたい！」と嫌がっている児童もいる。子どものための取り組みなのであれば、なぜ実施するのか。

◆事務局

子ども若者会議などでも、給食提供回数を増やしてほしいという声はある。

◇委員

現場の声より、一部の声を採用したのか。

◆事務局

マイナーな一部の声とは捉えていない。

◇委員

保護者からすると、給食に関して学校の負担がどれくらいあるのかわからない。日程がダメなのか、増やすこと自体がダメなのか。

◇委員

給食提供の必要のない日に提供すること自体がどうなのかと思っている。給食時間は、給食指導をすることになる。

◇委員

児童館に通わせている保護者は助かると思う。一方、子どもで嫌がる子の声にも耳を傾けるべきだと思う。給食だと食べられる野菜があったり、友達と食べる楽しみがあったりして、給食に対して子どもが喜んでいる部分もある。

◆事務局

子どものためになるのは、どちらかということを考えながら新規事業を進めていくべきである。当日は、教員ノータッチでよいが、12月23日に向けて指導をしていくのは教員の務めである。

◇委員

12月23日である必要性を感じられない。12月22日でもよいのではないか。

◆事務局

2学期最後の日ということで、12月23日としている。

◇委員

地域での協力者はたくさんいると思う。PTAだけでは負担というのであれば、コーディネーターを使って見守る人を集めることは可能だと思う。

◇委員

- ・給食の提供日が増えることは保護者としてうれしい。
- ・中学生については、自分たちでできるのではないか。
- ・当日に向けての学校活動が、保護者の耳には届かないので、学校が大変なのではないかと思う。
- ・PTAの活動を減らしていっているので、ボランティアを募る形で対応することになると思う。
- ・給食が嫌いな子は嫌かもしれないが、友達とご飯を食べる時間が好きな子にはうれしい取り組みだと思う。
- ・取り組みの意図はすばらしいが、1～4年生は教員の助けが必要なのではないか。

- ・給食提供はありがたい反面、教員への負担を考えると複雑である。
- ・低学年と高学年でペア給食をしたらどうか。
- ・「全員で給食を食べよう！」というテーマに対して、子どもたちが一生懸命になりすぎて、学校に来られていない友人のプレッシャーにならないように配慮してほしい。
- ・子どもたちのためにならない取り組みなのであれば、やめたほうが良い。
- ・ボランティア等は募れそうだが、募集のための案内など学校の負担が多いのではないかと思う。

◇委員

学校としては、働き方改革による学校負担の見直しがある中、終業式終了後、給食時間までの児童生徒の授業時間が負担となる。また、愛知県は県をあげて「ラーケーション」を実施し、子どもと保護者の時間を増やす取り組みをしているのに、なぜ逆行するような事業を行うのか疑問である。しかしながら、保護者の要望があることは理解しているので、決まればきちんと取り組みたい。

◇委員

子どもたちに対して、新規事業についての説明や当日の特別感をどのように伝えるのか。もし、給食が1日多く出るというだけでは、この事業を行う意図が分からないのではないか。

◆事務局

取り組みについては、教育委員会から子どもたち（児童会・生徒会など）に説明を行い、学校ごとに取り組みを実施してもらう予定をしている。

◇委員

子どもたちの中には、「お楽しみ給食が1日出た！ラッキー！」で終わってしまう取り組みになる可能性もあるということか。

◆事務局

可能性として、全くないとは言い切れないが、1人でも多くの児童生徒で12月23日の給食時間を過ごせればよいと考えている。

◇委員

事業実施にあたり、児童生徒・保護者・学校（教員）へのアンケートの実施は必要だと思う。現時点では、全体的に見えない部分が多すぎて、実施の必要性が判断できない。意見の吸い上げをして、フィードバックしてほしい。また、事業内容の修正もしてほしい。

◆事務局

事業実施後の検証（アンケート等）は実施し、次年度以降に生かしたい。

◆事務局

働き方改革は、教員のみなことだけでなく、一般に働くすべての人にかかわってきている社会問題である。「子供たちのために」という視点を一番に考えて、この事業が進められたら良いと思っている。

◇委員

本当に教員ノータッチで実施できるのか心配である。低学年の教員ノータッチは難しいと思う。トラブルがあれば、見守る方々も教員を頼るので難しい。

◆事務局

12月23日までに、日々の給食指導をやっていけば、教員ノータッチで可能と考えている。

◇委員

学校に外部の人が来れば、知らない顔をできない学校側のことも理解できるので、この新規事業は「通常の給食」とは別のイベントとして保護者に捉えてもらうよう、事前に教員（学校）はノータッチであることを周知してほしい。

◆事務局

この新規事業に関する窓口は、教育委員会とする。

◇委員

事業の実施にあたり、各学校に教育委員会の方が来てもらえるのか。

◆事務局

当日、教育委員会職員を各校に配置する。

◇委員

この事業を計画するにあたり、教育委員会と学校の意見のすり合わせができていないように感じる。

◆事務局

「学校はノータッチ」というところから始める事業のため、本日はじめて資料の提出をさせてもらった。

◇委員

事故のないよう、ノロウイルス（食中毒）や、異物混入への対応などしっかりした体制作りをしてほしい。検食の実施も忘れずにしてほしい。

◇委員

PTAや地域の方は、見守りのみであるのか。一緒に給食を食べるのか。

◆事務局

見守りに専念していただきたいと思っているが、今後検討する。

◇委員

「テーマ」と「事業実施」は、別で採決してほしい。

◆事務局

新規事業として実施するため、分けて採決はしない。

質疑、応答が終了。

議題1については原案のとおり賛成多数で決定。

■議題2 その他

◇委員

今回の新規事業については、「給食提供回数を増やすことで、学校生活を豊かにし、食育につなげる」という目的のもとにやることになっている。校長会としては、給食の提供回数を増やすことが、子どもたちの生活を豊かにするのかという点に疑問を抱いている。逆に家庭（家族）での食事の機会を奪うことになるのではないかと思っている。今後の課題として、継続して考えていく必要がある。

議事の終了を宣言する。会議が閉会。

■閉会を宣言